

大会宣言（案）

世界的な激しい資本の競争に勝ち抜くため、人間の尊厳さえ否定する荒々しい資本の本質が、労働者・勤労諸階層に襲いかかっています。

年収 300 万円以下の世帯が 3 分の 1 に達し、若年層の失業率は 10%を越え、毎年 3 万人を越える自殺者がいるなど、労働強化と低賃金はかつてなく深刻な状況を呈しています。

NTT は、巨額の資金を蓄積しているにもかかわらず、実質 50 歳定年制を強行、そして労働組合の存在すら必要としなくなる「業績・評価による差別賃金制度」の導入、さらに、退職者の貴重な収入の一部である企業年金の給付削減さえ厚生労働省に申請しました。

NTT 東日本は、退職再雇用を拒否した労働者を首都圏に集め見せしめ的な職場に収容しました。また、OS 会社は、大幅な賃下げと労働強化をおしつけ、働く意欲を奪っています。

先に行われた第 44 回衆議院総選挙は、「見せかけの力と指導力」を演じた小泉自民党が、出口を見出せない勤労大衆を巧みに組織し圧勝しました。

このように私達をとりまく状況は、「どうにもならない泥沼」から抜け出す光明など永遠に消え去ったかに見えます。

しかし、私たちは「50 歳退職再雇用制度」に反対し、労働者の利益を守り、ひとりの首切りも許さないために、闘う労働組合を結成しました。そして N 関労は、茨城支部の結成、山梨・広島での旗揚げへと全国に広がる動きを見せています。

1047 名の首切り撤回を求め自らの正義に確信を失わず、18 年間もの苦闘を強いられた国鉄闘争は、不満は残すものの「不当労働行為」は認められ、国家的犯罪は断罪されました。

平和を守るため、「9 条改悪を許さない」と訴える民主勢力は、少数政党にとって圧倒的に不利な小選挙区選挙制度のもと、社民党の微増、日本共産党の現状維持という結果を勝ち取り懸命に踏みとどまっているといえます。

私たちは、決して諦めることなく、希望をもって未来を見つめ、全ての労働者とスクラムを組み、自分達の生活向上はもとより、息子や娘たち、全ての人々の平和と幸福のために、日本における階級的労働運動の再構築をめざし一歩ずつ確実に前進します。

右、宣言します。

2005 年 10 月 22 日
東日本 NTT 関連合同労働組合
第 5 回定期大会